

信頼される存在へ

岐阜市立島中学校 3年

平井 智樹

みなさんは、自分のことが信じられなくなった経験はありますか。また、仲間のことを信じられなくなった経験はありますか。僕にはそういった思いをした経験があります。

僕は小学校3年生の時に学級委員を務めました。その後も、高学年になると、学級委員だけでなく、委員長や児童会長も務めました。学級や全校のために働ける喜びを感じながら、最後までやり遂げることができました。そんな重要な役割を、やり切った自分に自信が持てる小学校生活だったと、今でも思っています。

自信をつけた僕は、多少の緊張感を抱きながら、でもやはり、楽しみな気持ち、わくわくした気持ちで大半を占め、島中学校に入学しました。

充実感を覚えながら生活していた僕は、1年生の時の夏休みが明けた頃、体育大会のリーダーの立候補を募るお知らせがあったので、チャレンジしてみることにしました。僕の学級では、定員が2名のところに、僕を含め3人が立候補している状況でした。勝算はありました。しかし、投票の結果は、落選。「これまでがんばってきたつもりだったけれど、何で落ちてしまったのだろう。」という気持ちになりました。

その後、体育大会が一段落し、後期の組織決めの時期になって、僕は学級委員に立候補しました。各学級男女1人ずつ選出することになっているのですが、男子は僕を含め2人が立候補している状況でした。「体育大会のリーダーにはなれなかったけれど、小学校の頃の実績もある。絶対当選するはず。」そんな自信がありました。しかし、投票の結果は、またしても落選。気がつく、僕の眼から大粒の涙があふれていました。「何で、何でー」僕の心はどん底まで落ちていました。僕に投票しなかった仲間が近くに大勢いる状況を、想像してみてください。僕は、自分も仲間も信じられなくなっていました。その時は、仕方なく、空いていた保健委員に立候補しました。

嫌だった。正直、やりたくなかった。希望していた役職に何ひとつなれず、僕の心は悲しさや悔しさでいっぱいでした。しかし、僕はここで、諦めませんでした。任された仕事は最後までやり切ろう、仲間を見返してやろうという強い思いが、はい上がるための根源となり、挽回する気持ちが高まりました。僕は誰からも認められる、信頼される自分を自分でつくるために、保健委員の役割を全うし、加えて工夫した活動も行いました。

年明け頃、担任の先生から「生徒会選挙に立候補してみないか。」と言われました。僕はその言葉を受け、保健委員の仕事を全うした自分を信じ、挑戦しました。投票の結果は、当選。教室全体が歓喜に包まれました。僕のがんばりが、多くの人に認めてもらえたのだと感じました。僕は至高な気持ちで、「自分を信じて、力を尽くしてきてよかった。」と思いました。僕はどん底からあきらめずはい上がってきたことで、嬉しい結果を得ることができました。

人間は生きていれば、誰でも悲しいこと、辛いこと、後悔することなんて山ほどあります。しかし、いつまでもくよくよしていたら、何の解決にもなりません。また同じような思いをしなくても済むように、誰からも信頼される自分をつくっていくことが大切なのではないでしょうか。悲しい出来事、辛い出来事を、ただ「悲しかった。」「辛かった。」だけで終わらせないことも大切です。学校の先生は心のアンケートや教育相談、いじめ防止の放送など、様々な場面で僕たちの心を救ってくれています。それらに頼ることも大事ですが、社会に出ていくためには、自分で立ち上がる力をつける必要があるのではないのでしょうか。僕たちがこれから歩いていく道は、決して平坦なものではないと思われます。僕は自分や仲間が信じられなくなっても、自分ではい上がって、生徒会役員という自分の納得のいく役職をつかみ取ることができました。みなさんも悲しいことや逃げたいことがあっても、自分を信じて立ち上がることができれば、強く生きることができるのではないのでしょうか。多くの人に助けられている僕と同世代の人たちに、この思いが伝わるといいなと思います。